

第12回「市長と語るタウンミーティング」を開催しました

1 日 時 令和6年11月5日(火曜日) 午後7時00分～

2 場 所 善通寺市役所 4階 秘書広報課 特別応接室

3 参加者

四国学院大学社会学部長	片山 昭彦 様	
私立幼稚園保護者代表	西川 真有 様	
市PTA連合会幼児教育部会長	西山 大貴 様	
私立こども園・保育所保護者代表	横田 飛真 様	
市立保育所保護者代表	大林 勇太 様	
NPO法人子育てネットくすくす理事長	草薙 めぐみ 様	計6名

4 会議の概要

【テーマ】少子化社会における就学前教育・保育のあり方について

1. 開会
2. 主催者挨拶
3. 参加者紹介
4. 少子化社会における就学前教育・保育のあり方について 概略説明
5. タウンミーティング
6. 閉会

5 いただいたご意見

【テーマ】 就学前教育・保育の現状と課題について	
発 言 者	ご 意 見
片山 様	<p>(善通寺市学校等の在り方検討委員会が出た議論等について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初の課題は、充実した教育は少人数で行われるべきか、多人数で行われるべきかであった。人数が少なかったら充実したものになるのではなく、逆に人数が多ければ社会性が伴うのかということでもなく、どこを着地点とするのかというのが一番の議論となった。まず小学校の基準について、文科省の基準も考慮し、社会性を養う教育のためにはある程度クラス替えが出来る人数確保が必要ではないかということで2校もしくは3校ということで纏まり、それに伴い幼稚園・保育所についてもこども園を2園もしくは3園にするのが望ましいとの提言をするに至った。 ・どこに設置するのかということについては、地域との連携もあるのでその検討も大事だが、自身の居住地のことを優先した話をするのではなく、市全体を見ながらどうするかという議論が必要である。
西川 様	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに対する手厚いサポートがあることに感謝している。 ・女性の社会進出で働き方も変わってきているので、そこも踏まえて幼稚園と保育所のそれぞれ良いところを備えた施設になれば良いと思う。 ・現在子どもを通わせている私立幼稚園は自分の気持ちをコントロールすることや相手の気持ちを考えることといった情操教育に力を入れてくれているので、そこが大変良い。 ・園ごとに異なった教育方針があり、それに沿った教育を受けた子どもたちが一斉に小学校にあがることについて少し心配している。

発 言 者	ご 意 見
西山 様	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園・保育所の先生方が子どもを朝から晩まで預かり教育していることの大変さを実感した。保護者がその重要性をもっと理解し、感謝の気持ちを持つことが大切だと感じる。 ・ SNS が普及することで、保護者同士の直接的なコミュニケーションは減っているのではないか。顔を見て話をするすることで、考えや情報を共有し易くなるため、そうした機会を作っていくべき。園行事の準備や後片付けをできる範囲で行う中でもコミュニケーションをとり、関係性を作ることができる。統廃合の話についても、直接会って話をする機会を作ることスムーズに進むのではないか。 ・ 幼稚園保育所に子どもが通っていても統廃合の話を三、四年しているうちに子どもが卒園しており既に当事者ではないため責任が持てないという声も聞くが、子どもが卒園してしまっても、地域への愛着や責任感は変わらない。地域に貢献したいという気持ちを持っている人間がいることを知ってもらうことで、たとえ子どもが卒園後のことであっても当事者意識を持ってもらうことができるのではないか。
大林 様	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者会長をして半年になるが、先生と保護者または保護者同士においてコミュニケーション不足だと感じている。現状送り迎えの際に挨拶をするだけであり、夜遅くのお迎えになると担任の先生とも話が出来ない。このような状態なので、伝達不足で困っている保護者を見かけたこともある。やはり何気ないことでも会話をする事でトラブルを未然に防いだり、活性化に繋がったりするのではないか。 ・ 伝え聞いた話からではあるが、やはり幼稚園の方がしっかりしたカリキュラムで進んでいると感じる。

発 言 者	ご 意 見
横田 様	<ul style="list-style-type: none"> ・現在子どもを預けているこども園では、最長で朝7時から夜7時まで延長保育をしていただけるし、土曜保育もあるので社会インフラとして経済活動を支えてもらっており、感謝している。コドモンというアプリが導入されており、朝の登園前に例えば何時に起きたかとか、朝ご飯を食べたかとか、排便はしたか等を入力し、先生方と情報共有が出来ている。先生方からは、その日の様子を写真付きで送られてきており、情報共有がなされている。 ・外国人の先生による英語の授業やプロサッカーチームとのタイアップによるサッカー教室、音楽隊の指揮者を先生として招いての音楽教育など先進的な取り組みもしていただいております。 ・保護者同士の繋がりには1人目のときはあまりなくとも、2人目、3人目も同じ園に入園させることで学年がかぶってきたりし、自ずと交流が生まれてきていると思う。
草薙 様	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身が子育てをスタートしたのは約30年前。その頃と現在では社会も親のニーズも変容している。その時代の当事者のニーズに沿った施策を考えていかないと、当事者から不満や、そのサービスを利用しない・出来ないということになる。せっかく社会資源があっても使えなければ無いのと同じ。最近の保護者はニーズに合う自治体等を調べて転居してしまう。 ・子どもたちには豊かな環境で育て欲しいというのが一番にあり、その中で私たち大人は子どもに対してきちんとした責任を負って考え、覚悟を持って決めていかなければならない。そのためには、子どもの声を聞くこと、保護者のニーズを拾い上げていくことが重要であると考えている。 ・現在は多様な家庭で様々なニーズがあるので、認定こども園をまず作ってそこで保護者のニーズを拾い集めるのはどうか。認定こども園であれば就労していない家庭のニーズを拾い上げられるし、1号認定満3歳になったときに入園も可能である。

【テーマ】魅力あるこども園とは

発 言 者	ご 意 見
西川 様	<p>・モンテッソーリ教育※1を行うのが良いのではないかと。子どもの興味のあることから伸ばしていくということは情操教育に繋がっていくし、やはり小さい頃の環境は非常に大切なので、人の気持ちを考える、物を大事にするといったこと全てに繋がる教育が理想的である。</p> <p>※1 モンテッソーリ教育は子どもを観察することによって見出された事実に基づく科学的な教育法。その基本的な考え方は「子どもには生来、自立・発達していこうとする力（自己教育力）があり、その力が発揮されるためには発達に見合った環境（物的環境・人的環境）が必要である」というもの。大人がすべきことは、何かを直接子どもに教え込むのではなく、子どもの発達がどのような形ですすんでいくかを知り、子どもを観察し、環境を整えることである。</p>
西山 様	<p>・今通わせている幼稚園は素晴らしい先生方が揃っており、自分にとってはそれが魅力。ただ、先生方1人1人にフォーカスが当たっていない状態で、素晴らしい先生がいてもそこに気づいていない方もいる。自分の出来ることとしては、ちょっとした世間話の中で先生方がこういうことまで気配りしてくださった等の話題を出し、多くの保護者の方に先生方の素晴らしさを気づいてもらえるようにしている。</p> <p>・保護者のニーズを把握しそれに対応することも大事だが、保護者自身がこの園に入れたいと思うような運営をしていくべきではないか。</p>
大林 様	<p>・たとえば英語教育に力を入れた園であるとか、運動すること体を上手に使えることに力を入れた園など、特色のある園を作ってはどうか。善通寺の子どもは体を動かすことが上手であるなどの評判が少しずつでも周りに伝わると、それが市の魅力にも繋がるのではないかと。また、そこに魅力を感じた近隣市町の子も入園してくれるのではないかと。</p>

発 言 者	ご 意 見
横田 様	<p>・現在子どもが通っているこども園の先生方は大変素晴らしく教育にも満足しているが、建物は古く防災面で不安がある。現在どこの施設も古いところばかりであるが、保護者としては子どもが安心安全に通える防災面にも配慮した施設であれば良いと思う。</p>
草薙 様	<p>・地域と繋がりのある企画があるとか、英語教育があるとか、リトミック教育※2を行っているなど特色のあるこども園にすべきではないか。2園もしくは3園にするのであれば、同じものではなくそれぞれ違った特色のあるものにすべき。</p> <p>※2 リトミックは、音楽を通して子どもの感性や表現力を育てる教育法で、多くの幼稚園や保育園でも取り入れられている音楽教育。音楽に合わせて体を動かす「リズム運動」、歌を歌いながら音感を育てていく「ソルフェージュ」、自由に音楽を表現する「即興演奏」が、リトミックの3大要素である。</p>
片山 様	<p>・これから整備検討委員会も開かれるが、その中でもやはり子ども達の声を聞くということが重要だと改めて感じた。子どもたちの声を聞きながら、大人たちが決めていくことになるが、その際は自分自身の地域への思い入れ等は抑えて、子ども達のためにどうすべきかを考えていかなければならない。</p>